A－07

ニュースポーツの変容過程に関する研究（３）
～変容に伴う支援団体間の有機的連携の可能性～

谷口勇一（大分大学）

一昨年の本学会（2000 年第 30 回大会　明治大学）において、発表者らは、ニュースポーツ実施者（以下、実施者）ならびに非実施者に対する意識調査結果をもとに、ニュースポーツが変容過程にあると報告した。その際の報告概要は以下のとおりである。

1) ニュースポーツ意識を比較した結果、実施者にとってニュースポーツは「既存のスポーツと何ら変わらないもの」であると捉えられている傾向が、非実施者よりも強いことが示唆された。またニュースポーツに対する期待度の高さに関しても両者間には差異が認められた。
2) レクリエーション意識を比較した結果、レクリエーションの有しているいくつかの要素のなかでもゲーム性や競争性といったものに対する期待感は、実施者の方が非実施者のそれよりも高いことが示唆された。
3) 両者のスポーツ価値意識を比較検討した結果、実施者、非実施者ともに「レクリエーション型」をベースにしているものの、実施者においては非実施者と比較して「世俗内禁欲型」のスポーツ価値意識が強い傾向を示した。

１．研究の目的

ニュースポーツという新しい文化の出現は、現代社会において間違いなく歓迎されることであった。なぜならば、「多様な価値観の共有」、「共生の思想」が期待される生涯学習の時代において、誰もが気軽に参加でき、多様な構成員によって営むことが可能なニュースポーツは、まさに時代のニーズに符合したものであり、行政をはじめとした各種スポーツ・レクリエーション関係団体はその普及・振興に積極的な関与をしてきた。

しかしながら今日のニュースポーツは、上述のごとく、競技性を強調する既存スポーツに対するカウンターカルチャー（対抗文化）として発生してきた本来の意味内容を保とうとする「協同・遊戯志向」と、カウンターカルチャーとしての意味内容から脱し既存スポーツへと向かう「競技志向」との二極化が進行しているとの推察が可能であると思われる。

一連の本研究における目的は、ニュースポーツがどのような変容を遂げているのかを明らかにすることにある。前報(1)(2)においては、ニュースポーツ実施者の内面（意識）にアプローチすることによって変容過程のいわば輪郭が把握できたものと考えている。そこで本報においては、より明確な変容の実態を把握する意味から、ニュースポーツを取り巻く関係団体、すなわちレクリエーション協会（以下レク協会）と体育協会（以下体協）への調査を実施することとした。調査による検討内容は、主に、①両協会の新規加盟団体状況からみたニュースポーツの質的変容の再検証、②両協会のニュースポーツに対する期待感及び支援に対する意識分析である。

２．研究の方法

調査は、郵送による質問紙調査法を用い、平成 14 年 9 月 6 日～15 日にかけて実施した。調査対象は全国 47 の各都道府県レク協会ならびに体協であり、回答は各事務局長に依頼している。

回収率は、レク協会 63.8%（回収数 30 部）、体協 72.3%（回収数 34 部）であった。

３．結果と考察（一部）

(1) ニュースポーツの質的変容の再検証

実施者に対する調査の結果、ニュースポーツの変容は二極化の傾向にあることがわかった。ここではここ 10 年間の各レク協会ならびに体協における加盟団体の実態を把握することによってニュースポーツの全国的な変容傾向を明らかにしようと考えた。

まず、34 の回答を得た各体協におけるここ 10 年間の新規加盟団体を訊ねたところ、19 都府県において日レク協会加盟種目団体が加入していることがわかった（各 1 ～3 種目)。さらに 30 の回答があったレク協会に関しては、20 都府県においていまだ日レク協会に加盟していない新しい種目団体が新規加盟していることが明らかとなった（各 1 ～5 種目)。

このことからニュースポーツは、横方向への膨張（水平志向）と縦方向への上昇（垂直志向）が同時進行していることが再検証できたものと思われる。なお、2002 年度現在で日体協と日レク協会両方に加盟している種目団体は、ゲートボールとトランポリンの二種目である。

(2) ニュースポーツに対する期待感と支援役割

表 1　ニュースポーツに対する期待感（平均値）

	項目	レク協会(SD)	体協(SD)	t 値
1	住民の運動習慣の獲得	4.31(0.54)	3.94(0.90)	-1.93
2	住民の地域活動への参加	4.17(0.76)	3.67(0.96)	-2.28 *
3	住民間の交友関係醸成	4.41(0.57)	3.91(0.72)	-3.03 **
4	住民の生きがいの萌芽	4.28(0.65)	3.94(0.79)	-1.82
5	世代を越えた交流機会	4.31(0.60)	4.03(0.73)	-1.64
6	新たなニュースポーツの誕生	3.28(0.96)	3.36(0.86)	0.38
7	まちおこし	3.31(0.97)	3.42(0.94)	0.47
8	経済的効果	2.79(0.77)	2.79(0.93)	-0.24
9	体指の指導機会の増加	3.17(0.89)	3.70(0.92)	2.28 *
10	レク指導者の指導機会の増加	4.17(0.80)	3.82(0.92)	-1.61
11	総合型クラブつくり	3.83(0.80)	3.33(1.02)	-2.09 *
12	障害者との交流促進	3.79(1.08)	3.73(0.94)	-0.26
13	国民の運動実施率増加	4.14(0.74)	4.00(0.75)	-0.73
14	自然環境への配慮	3.55(0.91)	2.88(0.89)	-2.94 **
15	新しいスポーツ文化創造	3.72(0.88)	3.45(0.79)	-1.23
16	新しい競技スポーツの誕生	2.97(1.05)	3.12(0.96)	0.61

** = p<.01　* = p<.05

ニュースポーツに対する期待項目を 16 設定し、各々5 段階尺度で回答を求めたところ、全項目の平均値は、レク協会 3.70、体協 3.54 であり、両協会のニュースポーツに対する期待感としては「まあ期待している」のレベルにあることが明らかになった。

項目ごとの平均値を概観すると（表 1)、両協会ともニュースポーツが「住民の生活習慣全般にもたらす効果」への期待度が高いことがわかる。

4．議論の観点

変容過程にあるニュースポーツへの支援体制に関して、レク協会ならびに体協の有機的連携という観点から議論（提言）し、その可能性について検討を試みる予定である。